

## 資料

神奈川県川崎市で確認された外来種ムネアカハラビロカマキリ  
(カマキリ目、カマキリ科)

An Invasive Species, *Hierodula venosa* Olivier, 1792 (Mantodea, Mantidae),  
Newly Recorded from Kawasaki City, Kanagawa Prefecture, Japan.

川島逸郎<sup>1)</sup>・渡辺恭平<sup>2)</sup>

Itsuro KAWASHIMA<sup>1)</sup> & Kyohei WATANABE<sup>2)</sup>

**Key words:** Mantidae, *Hierodula venosa*, invasive species, new record, Kanagawa

はじめに

筆者の一人の川島は、川崎市多摩区柘形にある生田緑地において、見慣れないカマキリの♂を採集した。この個体は一見すると、オオカマキリとハラビロカマキリとの中間的な印象の種であったが、より類似する後者とも明らかに異なっていた。そこで川島が資料を調べたところ、近年になって、外来種として日本国内から記録されたムネアカハラビロカマキリ *Hierodula venosa* Olivier, 1792 ではないかと想定された。本種は、国内では福井県(藤野ほか, 2010)より、「*H. membranacea* (Burmeister, 1838) またはその類似種」として最初に採集、報告されて以降、岐阜県を含む複数の地域(山崎ほか, 2012)、愛知県では広域に分布していることが判明している(間野・宇野, 2014; 吉鶴, 2014)。2013年には、東京都八王子市にある多摩森林科学園で複数の卵のうがが発見されており、関東地方でも定着が確認された(会羽, 2015)。本種は、在来種のハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Serville, 1839) に近似しているが、前胸がより細長く腹面の後

半が橙色であることと、前脚の基節上縁の小突起が多く、やや尖頭の円錐状である点によって区別できる(間野, 2014; 吉鶴, 2014)。しかし、ハラビロカマキリ自体が身近でごく普通に見られる種であることに加え、ごく近年に国内で発見され、一般市民への周知が比較的遅れていることから、既知の侵入地以外では見落とされている可能性がある。生態系への悪影響として、捕食性昆虫であるばかりでなく、本種の侵入によりハラビロカマキリが減少したという報告もある(間野・宇野, 2014; 吉鶴, 2014)。川島は、念のため神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている愛知県産の本種の標本との比較を行ったが、今回得られた個体は、やや大型である点以外には特に形態差も見られなかったため、改めてムネアカハラビロカマキリで間違いのないという結論に至った。本個体は、今の段階では神奈川県から初めて記録される本種の標本であり、隣接する東京都八王子市でも得られている現状から考えると、今後、県内各地から発見される可能性が高い。

本稿では、採集標本の記録に加えて、本種の分布拡大への警鐘を鳴らすためにも、得られた個体についての情報を併せて公表しておく。発表に先立ち、文献の渉猟に加えて、東京都における本種の分布記録についてご教示いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員の高桑正敏博士(横浜市)と、生命の星・地球博物館における標本の比較の際にお手伝いいただいた加賀玲子氏(平塚市)に感謝申し上げる。

<sup>1)</sup>川崎市青少年科学館  
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柘形 7-1-2  
Kawasaki Municipal Science Museum  
7-1-2 Masugata, Tama-ku, Kawasaki, Kanagawa  
214-0032, Japan

川島 : kawashima-i@city.kawasaki.jp  
<sup>2)</sup>神奈川県立生命の星・地球博物館  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,  
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan  
渡辺 : watanabe-k@nh.kanagawa-museum.jp

## 記録

[神奈川県で得られた個体の標本データ]  
1 ♂ (成虫), 神奈川県川崎市多摩区枳形7丁目(生田緑地・中央広場), 14. X. 2015, 川島逸郎採集. 当該標本は、現時点で登録番号は付けられていないが、川崎市青少年科学館に収蔵されている。

現在の生田緑地においては、草地がわずかであることもあって、カマキリ目の最優占種は樹上性の強いハラビロカマキリとなっている。本種への類線形動物門 (Phylum Nematomorpha, ハリガネムシ類) の *Chordodes japonensis* Inoue, 1952 (ハンブルグ大学動物学博物館・Andreas Schmidt-Rhaesa 博士同定) の寄生率はひじょうに高く、秋期には、寄生を受けた個体が中央広場を含めた地上を徘徊するのが多くみられる。今回得られた個体は、そのようなハラビロカマキリに混じって地上を歩いていたところを採集され、やはり同様にハリガネムシの寄生を受けていた。これは、前者と同様に、樹上を主な生活場所としているであろう事に関連しているのかもしれない。なお当地では、ハラビロカマキリについて個体数の多いオオカマキリ *Tenodera ardifolia* (Stoll, 1813) およびコカマキリ *Statilia maculata* (Thunberg & Lundahl, 1784) においては、寄生例は知られていない。本種は、比較的小型なハラビロカマキリのみと比較すると、一見して大型であることに加え、上述したように体形は明らかに細長く、一瞥した印象では、あたかもオオカマキリとの中間的な雰囲気をもっていた。体各部の測定値は次の通りである：体長 (頭部前面から前翅先端まで) 76.0 mm, 前胸長 23.2 mm; 前胸最大幅 7.1 mm; 前翅長 49.1 mm; 前翅最大幅 14.0 mm; 後脚腿節長 18.9 mm。前脚基節の上縁に並ぶ小突起 (図3) は、左右ともが10個で、基部から第2~3個目はきわめて近接し、ハラビロカマキリのように球状ではなく、ごく低い尖頭の円錐状を呈する。前翅はハラビロカマキリ♂より相対的に長く、その先端は腹端を明らかに超える。

生時の色彩は、全体が淡緑色 (図1) で、前翅の上面部は半透明に近い。前胸腹面 (小腹板) の基半は橙色をおびており (図2)、中胸腹板および後胸腹板は紫色 (吉鶴, 2014 では「濃桃色」) を呈していた。

## [比較に用いた生命の星・地球博物館所蔵標本のデータ]

1 ♀, KPM-NK 9000032, 愛知県豊田市西中山町昭和の森, 30. XI. 2013, 佐藤裕美子採集; 1 ♂, KPM-NK 9000033, 愛知県豊田市陣屋跡, 25. X.

2015, 宇野智恵子採集; 1 ♀, KPM-NK 9000034, 愛知県豊田市東山町自然観察の森, 6. X. 2010, 山下採集; 2 ♂, KPM-NK 9000035 ~ 9000036, 愛知県豊田市, 30. IX. 2014, 宇野総一採集; 1 ♀, KPM-NK 9000037, 愛知県豊田市陣屋跡, 1. X. 2014, 宇野総一採集.

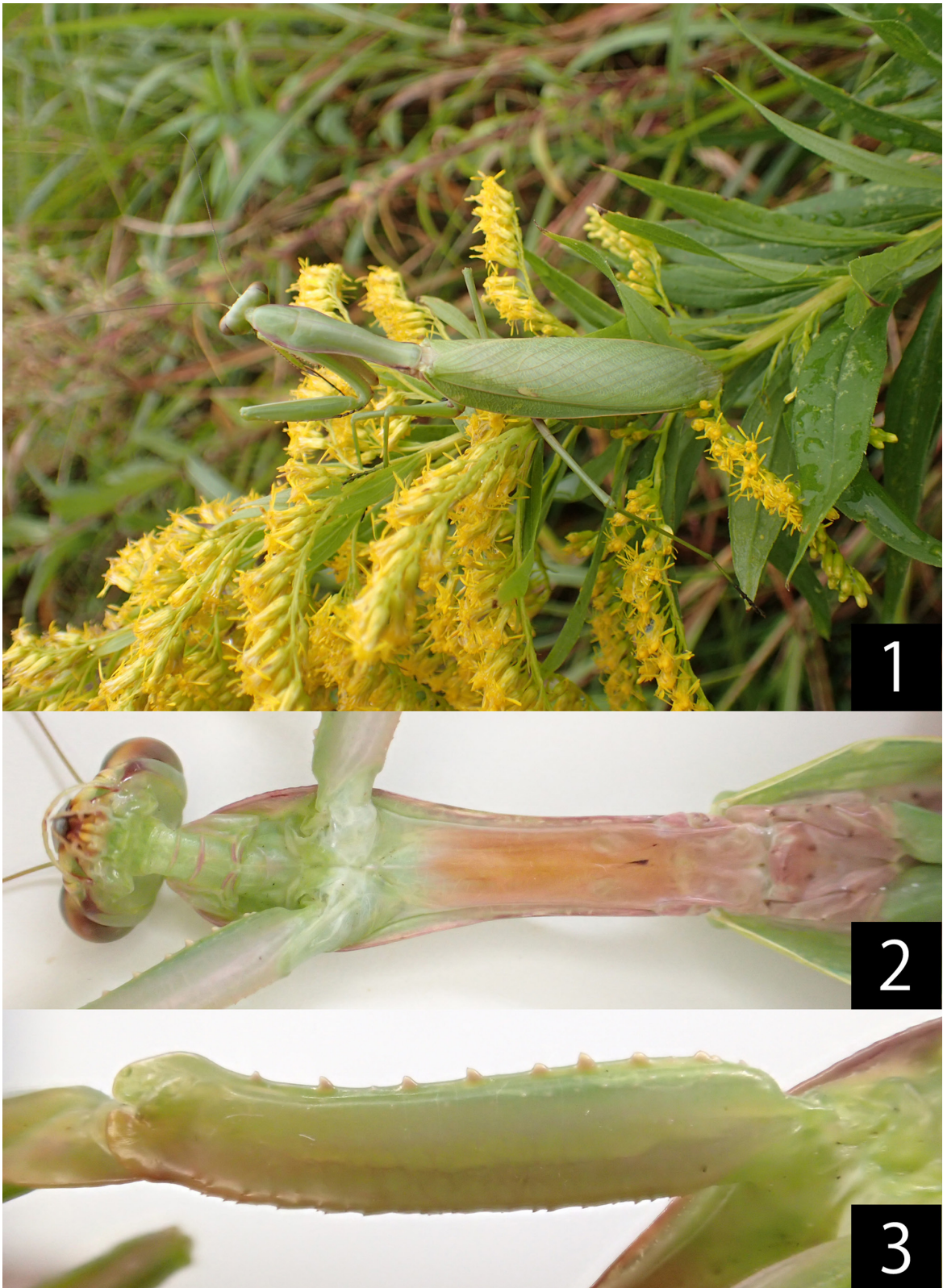
## 今後の在来種への影響と分布拡大について

本種の侵入以降、在来種であるハラビロカマキリが減少したという記録 (間野・宇野, 2014; 吉鶴, 2014) があり、とりわけ愛知県豊田市内では、外来種が確認された地点では、一ヶ所を除き在来種が確認されなくなったとされる (吉鶴, 2014)。生田緑地においては今の処、発見されたムネアカハラビロカマキリは本報告での1個体のみであり、在来のハラビロカマキリは現時点では多く産することから、その侵入は最近のことと想定されるが、両種の動向には今後の留意を要する。なお、最近の分布拡大経路であるが、本種自身による移動拡散に加え、人為的な要因も介在している可能性がある。実際、インターネット上において、京都府産の生きた本種が売買されている事例もあったことから、ペットとして本種が他地域へ運ばれた結果として、野外への放逐や逸出が懸念される。先述のように、本種は近縁の在来種との競合が懸念されるとともに、地域の自然環境 (生態系) に悪影響を及ぼす可能性の大きな外来種であることを念頭に、安易な売買をはじめ、人為的移動や拡散は厳に慎むべきである。

## 引用文献

- 会羽草生, 2015. 多摩森林科学園におけるムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. 卵囊の記録. うすばしろ, (46): 22.
- 藤野勇馬・岩崎 拓・市川顕彦, 2010. 福井県敦賀市でハラビロカマキリ属不明種の成虫と卵囊を採集. 昆虫と自然, 43 (5): 32-34.
- 間野隆裕, 2014. 愛知県に最近定着した外来種 —タイワンタケクマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ムシヤクワバメシジミ—. pp.100-102, In: 神奈川県立生命の星・地球博物館 2014 年度特別展「どうする? どうなる! 外来生物 とりもどそう 私たちの原風景」展示解説書, 127 pp., 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 間野隆裕・宇野総一, 2014. 豊田市におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの分布動態と形態について. 矢作川研究, 18: 41-48.
- 山崎知久・Schuette Kai・名和哲夫・土田浩治, 2012. ムネアカハラビロカマキリ (仮称) の日本からの発見と分布に関する報告. 日本昆虫学会第72回大会講演要旨.
- 吉鶴靖則, 2014. 愛知県矢作川中流域における外来性ハ

ラビロカマキリ属の一種の分布状況．豊橋市自然史  
博物館研究報告, (24): 1-5.



Figs. 1-3. *Hierodula venosa* Olivier, 1792, male from Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. 1, dorsal habitus; 2, head and prothorax (showing coloration on posterior half of prothorax), ventral view; 3, right fore coxa, ventral view.

図 1-3. 神奈川県川崎市産ムネアカハラビロカマキリ (♂) . 1, 背面からみた全形; 2, 腹面からみた頭部と前胸 (前胸腹面後半部の橙色部を示す); 3, 腹面からみた右脚前脚基節.

(受付 2015 年 10 月 27 日 ; 受理 2015 年 12 月 03 日)